

日本エイズ学会第2回理事会議事録

日 時：2006年11月29日（水）
午後6時～8時30分

場 所：日本教育会館 7階 704号室

出席者：岩本愛吉，松下修三，岡本 尚，杉浦 互，高田昇，稲葉憲之，岡 慎一，奥田研爾，小柳義夫，白阪琢磨，戸谷良造，中瀬克己，根岸昌功，馬場昌範，速水正憲，原田信志，堀 成美，満屋裕明，三間屋純一，木村 哲（監事）池上千寿子（会長）
委任状提出者：青木 眞，今井光信

岩本理事長より，本会会則第5章20条，理事出席者19名，委任状提出者2名により理事会の成立が確認され，議事に入った。

【報告事項】

1) 会員現況

会員現況（昨年同期より100名増，団体を含む合計会員数：1846名）の説明がなされた。

2) 2006年度会計中間報告

岡本会計理事より，2006年10月31日現在の会計中間報告について，主な項目を中心に説明がなされた。収入，支出とも予算に沿って進められている。

ホームページ運営費は契約更新を行っている時に，業務撤退があり，契約更新はされてはいない。理事選挙費は，（株）メディ・イッシュの業務撤退により，事務局所在地が無くなるため，移管先で3月末までに行うこととした。

3) 日本エイズ学会誌刊行状況

杉浦理事より，2006年度の刊行状況が報告された。

・論文の早期承認内規及び事例について

編集事務局より依頼された論文のHPに早期公開内規が作成され，これまでの経緯が説明された。

4) HIV/AIDS 臨床関連事項検討委員会について

岡理事より，現時点で検討する事項がないことが報告された。

5) 平成18年度「東京都エイズ予防月間」キャンペーンにおける講演会開催に伴う後援名義使用について

岩本理事長より，「東京都エイズ予防月間」キャンペーンにおける講演会開催に伴う後援名義使用について要請があり，後援名義使用を行ったことが報告された。

6) 日本エイズ学会ホームページ報告

高田理事より，HPの更新状況について報告がなされた。

7) 第20回（2006年）日本エイズ学会学術集会について

池上会長より，11月30日～12月2日まで教育会館，学術総合センターにて，第20回学術集会が開催されること

が報告された。

8) 第21回（2007年）日本エイズ学会学術集会について
高田 昇次期会長（広島大学病院）より，第21回学術集会の準備状況が報告された。

会期：2007年11月28日～30日

会場：広島国際会議場

会期中の閉会時間については，時間を7時までで終了することが報告された。

9) 第22回（2008年）日本エイズ学会学術集会について
小柳義夫次々期会長（京都大学ウイルス研究所）より，第22回学術集会について，以下の報告がされた。

会期：2008年11月27日～29日

会場：京都市サンプラザ

会期中は，京都は紅葉の季節のため，観光客が多く，宿泊施設の予約が難しいと予想され，旅行代理店の導入を推奨する意見があった。

10) その他

【審議事項】

1) 株式会社メディ・イッシュ業務委託契約の一方的解除通告について

岩本理事長より，（株）メディ・イッシュからの一方的な業務委託解除の経緯について報告があった。10月23日付けで（株）メディ・イッシュ代表取締役北村勝美氏より，業務委託契約の一方的解除通告が理事長宛に届いた。学会事務センター（破産）から学会事務事業を引き継いだ過去2年間の累積赤字が，平成18年度9月期で1億7,000万円に達する見込みであり，このまま，学会事務事業を継続すると，財政破綻に陥る可能性があることから学会事務事業の継続を断念するとの連絡であった。学会業務担当社員も11月末をもって解雇されるとのことであった。その後，解雇対象の社員等の努力により（株）メディ・イッシュの学会業務は（株）毎日コミュニケーションズに継承されることとなった。学会の運営を滞りなく行うために日本エイズ学会の業務を（株）毎日コミュニケーションズに継承委託することが審議され，承認された。（株）毎日コミュニケーションズとの契約は，岩本理事長，岡本会計理事が担当することが理事会で承認された。

2) 2006年度名簿調査および理事選挙について

岩本理事長より，2006年度は，名簿調査，理事選挙が行われる年であるが，（株）メディ・イッシュから業務委託解除通告があったため，作業が遅延していることが報告された。理事選挙を本年度中に行うことが必須のため，本年度は名簿調査は行わず，現在の会員データから氏名，都道府県を入れた選挙人名簿で代行し，年明けに理事選挙を行うこととした。

3) 2007年度予算案

2007年度日本エイズ学会予算案が岡本会計理事より説明がなされ、同案が承認された。(株)メディ・イッシュが学会事務事業から撤退するため、移管先として、毎日コミュニケーションズに業務委託する方向で予算案が立てられている。

4) 第7回(2006年度)ECC山口メモリアルエイズ研究奨励賞について

第7回ECC山口メモリアルエイズ研究奨励賞について、岩本理事長から同選考委員会の選考結果および理事の持ち回り審議結果が報告された。受賞者として京都大学大学院医学研究科のサマン・ザマニ氏(受賞対象テーマ:イラン国の薬物使用者のHIV感染や行動の実態とハームリダクションの評価に関する社会疫学的研究)、岩手医科大学医学部の吉野直人氏(受賞対象テーマ:HIV/AIDSワクチン開発の基礎的研究および日本における母子感染の臨床的・疫学的研究)が承認された。(追記:本件授賞式は2006年12月1日(金)の総会において行われた。)

5) 第3回(2006年度)アルトマーク賞について

岩本理事長より、本年度のアルトマーク賞の選考について、本年度第一回理事会で結成された選考委員会での審議過程報告、理事会のメール審議の経過等が報告された。現行の選考規程では推薦された5名の候補の中から本年度受賞者を決定することができず、理事長から推薦人(理事・評議員)に対するお詫びが表明された。次年度には理事の半数が入れ替わるため、事情を承知している現在の理事会で、賞のあり方、選考規定等を再審議することとした。

6) 評議員会・総会について

岩本理事長より、12月1日開催の評議員会・総会の進め方と報告担当理事が確認された。

7) 評議員会・総会の案内状について

岩本理事長より、理事会、評議員会・総会の出欠の委任状について、理事会では委任状を提出する葉書になっているが、評議員会、総会では、出欠の案内のみとなっていることが報告された。議論の上、現状を維持することが確認された。

8) その他

以上

文献紹介

Ryoko Michinobu : Lives in Transition, Center fo Health Policy Studies, Mahidol University, 2005 (196p).

本書は、現在、札幌医科大学で医療人類学を担当している道信良子氏が、1997年からのタイでの調査、そして博士論文となった研究をまとめられた著書であり、なかなかの力作である。

北タイのランブーンにある日系企業で働くタイの女性たちの生活、とくに性にかかわる行動、そしてHIVに対する態度などについての詳細なエスノグラフィーである。タイの歴史・経済的状況など大状況を紹介しつつ、村の伝統的な生活と価値観、さらに日系企業の進出による若い世代の生活の変化を描きながら、読者を文化変容とは何か、具体的な状況の中で考えることを可能にしてくれる。

北タイの諸県は、タイの中でももっともHIV/AIDSの感染率が高い地方のひとつである。農村的環境で育ち、しかもコンピュータ部品を作る日系企業という近代的な特殊な環境で働く女性たちの姿を、ともに暮らした若い女性としての目で描く。性への伝統的認識と近代意識との狭間で生きる女性たちは、蔓延するエイズについての教育をどのように受け止めているのか。また、「近代化」の中で変化しつつも、依然として残る性に関する男女のダブルスタンダードなどについての指摘がある。全体を通読するだけでなく、タイの農村社会への興味、エイズについての工場の女性労働者の認識と行動など、それぞれ興味のある部分だけを選んで読んでも得るものがあるだろう。

人類学的研究は、ある特殊な時期に遭遇した特定の研究者にしかできない研究があるといわれる。この本もまた、日系企業とエイズを背景とした時期と研究者の(若い女性という)属性とがうまくマッチした研究の成果であるといえよう。

筆者はこの本をバンコクの書店で購入したが、残念ながらわが国の書店ではまだ見えていない。

(順天堂大学 丸井英二)